

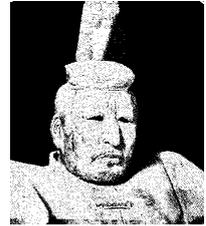
【】 鎌倉幕府の成立と執権政治

【】 平家の滅亡

[源頼朝の挙兵]

[問題]

1180年、右の肖像画の人物は、平氏追討の命令を受けて伊豆で兵を挙げた後、山と海に囲まれて守りやすい鎌倉を本拠地にして指揮をとった。この肖像画の人物は誰か。



(補充問題)

[解答欄]

[解答]源頼朝

[解説]

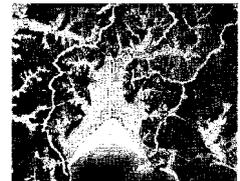
みなもとのよりとも
源頼朝(右図)は、1180年に挙兵した後、鎌倉(神奈川県)を本拠地にして指揮をとった。



[源頼朝]の挙兵]

1180年に挙兵
鎌倉を本拠地にした
山と海に囲まれているので
守りやすかったから

鎌倉は東・北・西の三方を山で囲まれ、南は相模湾に面した天然の要害である。東・北・西のいずれから鎌倉に入るとしても「鎌倉七口」と呼ばれる、山を切り開いた狭い通路(切通し)を通らねばならなかった。このように、鎌倉は山と海に囲まれているので守りやすい土地であったので、ここを本拠地に定めた。



鎌倉幕府がおかれたところ

※入試出題頻度：「源頼朝○」「鎌倉(地図)△」「山と海に囲まれているので守りやすかったから△」

(頻度記号：◎(特に出題頻度が高い)、○(出題頻度が高い)、△(ときどき出題される))

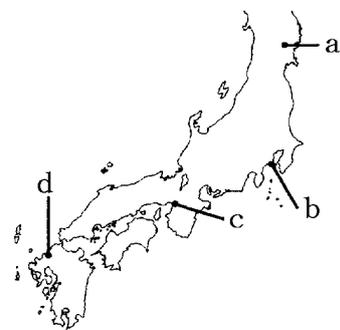
[問題]

源頼朝が本拠地にした鎌倉の位置を右の略地図のa～dから選べ。

(北海道)

[解答欄]

[解答]b



[問題]

次の文中の A, B にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを下のア～エから 1 つ選べ。

源頼朝が幕府を開いた鎌倉は, (A)であった。また, 鎌倉に入るまでの道には, 右の写真のような(B)が設けられた。

ア : A 広大な盆地に位置し陸上交通の要, B 切通し

イ : A 広大な盆地に位置し陸上交通の要, B 水城

ウ : A 三方を山に囲まれ南は海に面している地, B 切通し

エ : A 三方を山に囲まれ, 南は海に面している地, B 水城

(山口県)

[解答欄]

[解答]ウ



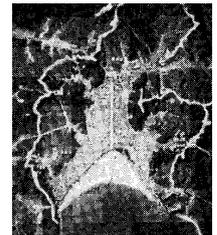
[問題]

源頼朝は, 鎌倉を本拠地に定め, 幕府を置いた。その理由を右の資料から読み取れることを含めて書け。

(石川県)

[解答欄]

[解答]山と海に囲まれているので守りやすかったから。



[壇ノ浦の戦い]

[問題]

平氏が滅んだ戦いはどれか。次の[]から選べ。

[壇ノ浦の戦い 関ヶ原の戦い 白村江の戦い 桶狭間の戦い]

(栃木県)

[解答欄]

[解答]壇ノ浦の戦い

【解説】

源頼朝は鎌倉かまくらにおいて、弟の源義経みなもとのよしつねらを派遣した。義経は一ノ谷いちのたにの戦い、屋島やしまの戦いで平氏へいしを破り、1185年、壇ノ浦だんのうら(山口県)の戦いで平氏を滅亡させた。



【源平の争乱】

1180年 源頼朝の挙兵

1185年 壇ノ浦の戦い

源義経が平氏を滅ぼす

(平家の人々は御(1185)難の壇ノ浦)

※入試出題頻度：「壇ノ浦(地図)○：源義経△，平氏の滅亡△」

【問題】

次の各問いに答えよ。

(1) 壇ノ浦で平氏を滅亡させた源氏の武将は誰か、次から選べ。

[源義家 源義経 源義朝 源義仲]

(2) 壇ノ浦の戦いが行われた場所を、右の地図中のア～エから

1つ選べ。

(茨城県・三重県)



【解答欄】

(1)	(2)
-----	-----

【解答】(1) 源義経 (2) エ

【】鎌倉幕府の成立

[守護と地頭の任命・征夷大將軍]

[問題]

次の文中の①、②の()内からそれぞれ適語を選べ。

源頼朝は、①(源義経／平清盛)を捕らえることを理由として、②(国司と郡司／守護と地頭)を各地に置くことを、朝廷に認めさせた。

(愛媛県)

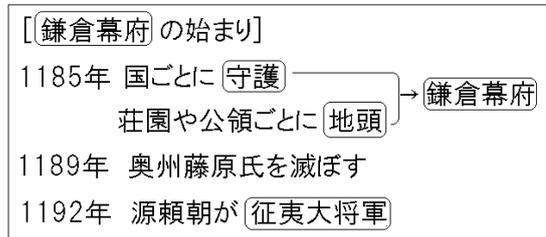
[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 源義経 ② 守護と地頭

[解説]

源頼朝の巨大化を恐れた後白河上皇は、頼朝と義経が不仲になったことにつけこみ、義経の願いを受けて頼朝追討を命じた。これに対して頼朝は軍を京都に送って後白河上皇にせまり、義経をとらえることを口実に、守護と地頭を任命する権利を認めさせた。



守護は国ごとに置かれ、国の中の軍事・警察や御家人の統率を行った。地頭は荘園や公領の管理、年貢の取りたて、警察にあたった。こうして頼朝は、本格的な武士の政権である鎌倉幕府を開いた。これ以降、1333年に滅亡するまでの約150年間を鎌倉時代という。

義経は平泉を根拠地にしていた奥州藤原氏をたよって逃れた。頼朝は義経をかくまったことを理由に、1189年、奥州藤原氏を攻めほろぼし、独立性の強かった東北地方も支配下においた。1192年、源頼朝は朝廷より征夷大將軍に任じられた。(いい国(1192)めざす)。(かつては、源頼朝が征夷大將軍に任命された1192年を鎌倉幕府の成立としていたが、現在では、守護・地頭の任命権を獲得した1185年を鎌倉幕府成立の時期とする説が有力になっている。)

※入試出題頻度：「源義経を捕らえる口実△」「守護(国ごと)◎」「地頭(荘園や公領ごと)◎」「鎌倉幕府○」「1192年に征夷大將軍○」「奥州藤原氏を滅ぼす△」

[問題]

次の各問いに答えよ。

- (1) 国ごとに置かれ、謀反や殺人などの犯罪人を取りしめることが職務の一つに定められた役職は何か。
- (2) 武士の中には、幕府の將軍からの御恩として、荘園や公領の年貢徴収と土地の管理などを行う職に任命される者もいた。この職を何というか。

(石川県・徳島県)

[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) 守護 (2) 地頭

[問題]

源頼朝が、源義経をとらえることを口実に朝廷に認めさせたのはどのようなことか、「国ごと」「荘園や公領ごと」の2つの言葉を用いて書け。

(山形県)

[解答欄]

--

[解答]国ごとに守護，荘園や公領ごとに地頭を設置すること。

[問題]

次の文章中の①～④の()内から適語を選べ(または、適語を入れよ)。

11世紀後半の大きな戦乱を経て東北地方を支配した奥州①(伊達／藤原)氏は、②(多賀城／平泉)を拠点として、金や馬などの産物や、北方との交易によって栄えたが、12世紀後半、(③)によって滅ぼされた。(③)は1192年、朝廷から(④)に任命された。

(静岡県改)

[解答欄]

①	②	③	④
---	---	---	---

[解答]① 藤原 ② 平泉 ③ 源頼朝 ④ 征夷大將軍

[問題]

次の文章中の①～③に適語を入れよ。

右図は(①)と伝えられる人物の肖像である。(①)は平氏を滅ぼした後、対立していた自分の弟である(②)をかくまったという理由で奥州(③)氏を攻め滅ぼした。



(福島県改)

[解答欄]

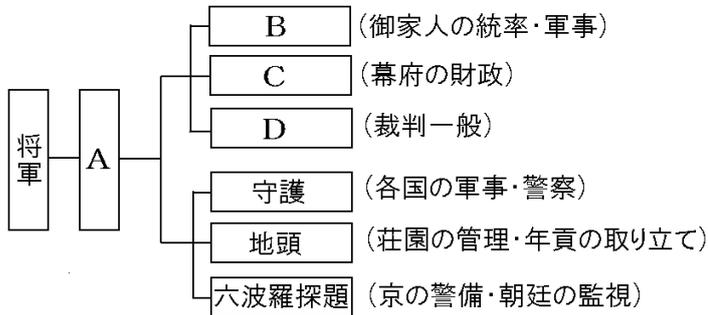
①	②	③
---	---	---

[解答]① 源頼朝 ② 源義経 ③ 藤原

[鎌倉幕府のしくみ]

[問題]

次の鎌倉幕府のしくみで、A～Dにあてはまる役職名を書け。



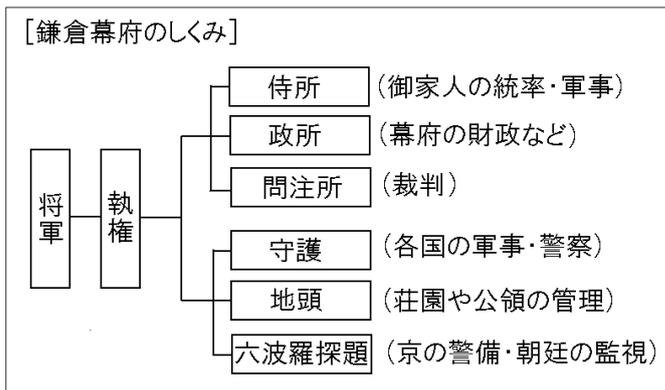
(補充問題)

[解答欄]

A	B	C	D
---	---	---	---

[解答]A 執権 B 侍所 C 政所 D 問注所

[解説]



※入試出題頻度：この単元はときどき出題される。

【】 御恩と奉公

[問題]

次の文章中の①，②に適語を入れよ。

鎌倉時代には，将軍と主従関係を結んだ武士は御家人とよばれた。将軍は，御家人に対して，先祖代々伝わる領地の支配を認め，守護や地頭に任命したり，てがらに応じて新たな領地を与えたりした。このことを(①)という。その一方で，御家人は将軍に忠誠を誓い，鎌倉や京都などの警備を行ったり，合戦の際には命がけで戦ったりした。このことを(②)という。

(高知県改)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 御恩 ② 奉公

[解説]

将軍と御家人は御恩と奉公の関係で結ばれていた。

御恩の中で一番重要なのは，家来となった武士(御家人)の土地支配を保護したことであった。源頼朝は御家人に対し，おもに地頭に任命することによって，先祖伝来の領地を保護した。国司や近隣諸勢力との争いに絶えず悩まされていた武士にとって，「一所懸命」(生活を支える領地(一所)を，命を懸けて守る)という言葉がしばしば用いられたほど大切だった領地の支配権を認めてもらうことは，何物にもかえがたい御恩であった。

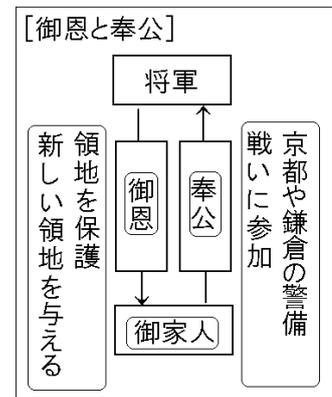
このような御恩に対し，御家人は，平時には，京都や鎌倉の警護

にあたる義務を負い，戦時には，命をかけて鎌倉殿(源頼朝)のために戦った。これが，奉公である。さらに，鎌倉殿のために，命をかけて戦っててがらをたてたときには，没収した敵の領地を恩賞として与えられたが，これも御恩の1つである。

※入試出題頻度：「御恩◎：領地を保護○手柄に応じて新しい領地を与える○」

「奉公◎：戦いに参加○京都や鎌倉の警備△」「御家人◎」

※現在なら，土地を暴力で占拠されたときは警察に訴えることができるし，隣の家との境界線争いが生じたときは，民事裁判で決着をつけることができる。しかし，武士が発生した平安時代後期はそうはいかなかった。武力で土地をうばわれても国司などの役人が救ってくれるわけでもなく，また裁判に訴えて解決をはかることも難しかった。(国司は年貢を多く徴収して私腹をこやすことには熱心でも，警察・裁判など本来はたすべき職務にはほとんど無関心であった。) 鎌倉殿(源頼朝)の御家人となることによって，土地をうばわれそうになったときは，鎌倉殿の指揮のもと，御家人が結束して敵を撃退してくれるし，また御家人同士の土地争いが生じたときは鎌倉殿が公平に裁いてくれた。



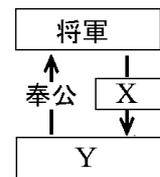
しかし、それだけではまだ十分ではなかった。平安時代、自分で開発した土地であっても、国司からの税の取り立てをまぬかれるために土地を貴族や寺社に寄進し、自分は土地を管理する荘官という私的な管理人という形式をとっており、法的には土地の所有者ではなかったからである。

1185年に、源頼朝は、朝廷にせまって守護・地頭を任命する権限を得て、御家人をそれぞれの土地の地頭に任命した。この地頭職は、公的にも権限を得た鎌倉殿(源頼朝)によって任命された公職であったから、御家人たちは、はじめて国家公認の土地所有者(または管理者)になることができたのである。これが、御家人の鎌倉殿への忠誠を絶対のものにしたのである。

[問題]

右図は鎌倉幕府を支えていた主従関係を表したものである。X, Yにあてはまる語を、それぞれ書け。

(秋田県)



[解答欄]

X	Y
---	---

[解答]X 御恩 Y 御家人

[問題]

次の各問いに答えよ。

- (1) 将軍と主従関係を結んだ武士は何とよばれたか。
- (2) (1)は、ふだん京都や鎌倉の警備をし、戦時には一族をひきつれて戦うなどの義務を負っていたが、この義務を何というか。漢字2字で書け。

(佐賀県・山形県)

[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) 御家人 (2) 奉公

[問題]

鎌倉時代の「御恩と奉公」について、「御恩」とは誰が誰に対して行うことか。次の①, ②に適語を入れよ。

(①)が(②)に対して、土地や官職を与えること。

(福井県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 将軍 ② 御家人

[問題]

鎌倉時代の将軍と御家人の関係を記した次の文の X 内に適する内容を、「領地」という語句を用いて簡潔に書け。

将軍が御家人に対して(X)ことなどにこたえて、御家人が戦さのときに一族を率いて戦うことなどで成り立つ主従関係。

(長崎県)

[解答欄]

[解答]領地を保護し、新たに領地を与えたりする

[問題]

鎌倉幕府において、御家人たちは、将軍からの「御恩」に対して、「奉公」にはげんだ。御家人たちは、「奉公」としてどのようなことを行ったか、「合戦」「警備」という語句を使って簡単に説明せよ。

(山形県改)

[解答欄]

[解答]合戦に出て戦ったり、京都や鎌倉の警備に出たりすること。

[問題]

次の a～e のうち、主君が家臣に土地の支配を認めることによって、家臣が主君に従う関係で成り立っていた社会はどれか。あとのア～エの組み合わせの中から最も適切なものを選び、その記号を書け。

- a 律令国家によって政治が行われていた社会
- b 鎌倉幕府によって政治が行われていた社会
- c 戦国大名によって政治が行われていた社会
- d 江戸幕府によって政治が行われていた社会
- e 明治政府によって政治が行われていた社会

ア a・b・c イ b・c・d ウ b・c・e エ c・d・e

(広島県)

[解答欄]

[解答]イ

【解説】

「主君が家臣に土地の支配を認めることによって、家臣が主君に従う関係で成り立つ社会」とは封建制度が行われていた社会である。b(鎌倉時代)・c(戦国時代)・d(江戸時代)は封建制度が行われていた時代である。

【】 執権政治の時代

【】 承久の乱

[北条氏の執権政治]

[問題]

源頼朝は、地形的な利点の多い鎌倉を本拠地に定め、幕府を開いた。頼朝の死後、北条氏が幕府の実権をにぎり、将軍の力を弱めて(X)の地位につき、その地位を独占して(X)政治を行った。文中の X に適語を入れよ。

(岐阜県)

[解答欄]

[解答] 執権

[解説]

1199 年に源頼朝が死んだ後、第 2 代将軍の源頼家と御家人の争いや、御家人どうしの争いが起こり、やがて幕府の実権は有力な御家人をまとめた北条時政(頼朝の妻北条政子の父)がにぎった。以後、北条氏は将軍の力を弱めて執権の地位を独占して幕府の実権をにぎった。これを執権政治という。

[執権政治]
源頼朝の死後、実権は北条氏
→ 執権の地位を独占

※入試出題頻度：「執権政治○：北条氏○が執権◎の地位を独占」「北条時政△」

[問題]

次の文中①の()内より適語を選べ。また、②の()内に適語を入れよ。

鎌倉時代、将軍の補佐役である①(老中／管領／摂政／執権)の地位についての②氏は、次第に幕府の実権を握り政治を動かすようになっていった。

(栃木県改)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答] ① 執権 ② 北条

[承久の乱]

[問題]

源頼朝の死後、将軍が暗殺される事件がおこるなど、鎌倉幕府の政治は混乱した。この混乱の中で、後鳥羽上皇は 1221 年に幕府をたおすために兵をあげた。後鳥羽上皇が幕府をたおすために兵をあげたこのできごとは何と呼ばれるか。その呼び名を書け。

(香川県)

[解答欄]



[解答]承久の乱

[解説]

武士の勢力が全国各地でのびていくにつれて、朝廷や貴族の反感は強まった。ことに貴族の経済的基礎である荘園が地頭によっておかされつつあったことは、危機感をいっそう増大させた。源頼朝の死後、幕府の実権は北条氏に移り、有力な御家人の争いが続いた。第3代将軍の源実朝が殺害される事件が起きると、幕府の動揺を好機とみた後鳥羽上皇は、

[[承久の乱]]

1221年 後鳥羽上皇
執権北条義時の追討を命じる

↓
北条政子(源頼朝の妻)
御家人の結束を呼びかける
(御恩と奉公を強調)

1221年に、第2代執権の北条義時追討の命令を出し、幕府を倒そうと兵をあげた。これが承久の乱である。(人に二色(1221)承久の乱)(北条義時は初代執権北条時政の次男で、北条政子の弟である。) この時代を「鎌倉時代」といっているが、実質的には朝廷と幕府の二大勢力が共存しており、天皇・上皇の朝廷の精神的権威はいぜんとして大きかった。この知らせを聞いた御家人たちは、朝廷方と戦えば「朝敵」となるのではないかと動揺した。このような御家人を前に、源頼朝の未亡人である北条政子が、「みなもの者、よく聞きなさい。これが最後の言葉です。頼朝公が朝廷の敵(平氏)をたおし、幕府を開いてこのかた、官職といい、土地といい、その恩は山より高く、海よりも深いものでした。…名誉を大事にする者は、京都(朝廷)に向かって出陣し、逆臣をうち取り幕府を守りなさい。」と説得した。政子は次のようにも言っている。「侍は、昔は3年のあいだ京都の守りにつくことを一生の大事と思い、一族、郎党まで晴れやかに出発したが、3年の京生活に力つき、国に下るときは、はだしでやっと帰ってきた。それを頼朝殿があわれに思われて、3年を半年に縮めてくださったので、皆よろこんだものだ。この御恩を忘れて、このたび京方へつくか、将軍に奉公するか、今はっきり言い切ってみなさい。」これで流れは変わった。御家人たちは、以前の悲惨な境遇を思い出し、団結して朝廷に刃向かうことを決心したのである。

※入試出題頻度：「承久の乱◎」「後鳥羽上皇◎：執権北条義時の追討△」

「北条政子◎の演説：源頼朝の妻△，御恩と奉公△，御家人の結束△」

[問題]

次の文を読んで、後の各問いに答えよ。

源頼朝の死後、幕府の実権は北条氏に移り、有力な御家人の争いが続いた。第3代将軍の源実朝が殺害される事件が起きると、幕府の動揺を好機とみた上皇は、1221年に、執権北条義時追討の命令を出し、幕府を倒そうと兵をあげた。

(1) 文章中の下線部の上皇とはだれのことか。

(2) このできごとを何というか。

(鹿児島県)

[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) 後鳥羽上皇 (2) 承久の乱

[問題]

次の文中の①に当てはまる人名を書け。また、②の()の中から適当なものを1つ選べ。

(①)は、夫である源頼朝の死後、「尼将軍」とよばれ、後鳥羽上皇がおこした②(応仁の乱/承久の乱/保元の乱)では、御家人らに結束を呼びかけた。

(熊本県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 北条政子 ② 承久の乱

[問題]

次の史料は、源頼朝の妻で尼将軍と呼ばれた人物が、ある争乱の際に武士たちに訴えた内容の要約である。

みなの者、よく聞きなさい。これが最後の言葉です。頼朝公が朝廷の敵をたおし、幕府を開いてこのかた、あなたたちが受けた(X)は山よりも高く、海よりも深いものでした。それに報いたいという志は浅くないはずです。名誉を大事にする者は、京都に向かって出陣し、逆臣を討ち取り、幕府を守りなさい。

(1) この訴えがおこなわれたのは、何という争乱がおきたときか。その争乱の名称を書け。

(2) この訴えをおこなった源頼朝の妻であった人物の名前を答えよ。

(3) 下線部の「みな

(4) 文中の X にあてはまる語句を漢字 2 字で答えよ。

(長崎県など)

[解答欄]

(1)	(2)	(3)	(4)
-----	-----	-----	-----

[解答](1) 承久の乱 (2) 北条政子 (3) 御家人 (4) 御恩

[問題]

次のア～エは、平安時代末から鎌倉時代にかけての戦乱である。古い順に並べかえ、記号を書け。

- ア 後鳥羽上皇が承久の乱をおこした。
- イ 源義経が壇ノ浦の戦いで平氏を破った。
- ウ 平清盛が平治の乱で源氏を破った。
- エ 源頼朝が奥州藤原氏を滅ぼした。

(大分県)

[解答欄]

[解答]ウ→イ→エ→ア

[解説]

ウ(平治の乱 1159年)→イ(壇ノ浦の戦い 1185年)→エ(奥州藤原氏滅亡)→ア(承久の乱 1221年)

[承久の乱の結果]

[問題]

承久の乱の後、鎌倉幕府が朝廷を監視し、西日本の御家人を統制するために設置した機関を何というか、次の中から1つ選べ。

[京都所司代 大宰府 六波羅探題 問注所]

(和歌山県)

[解答欄]

[解答]六波羅探題

[解説]

承久の乱で、幕府は大軍を率いて上皇方を破り、後鳥羽上皇はおき隠岐(島根県)に流された。乱後、幕府は、朝廷を監視するために、京都にろくはらたんたい六波羅探題という役所を置いた。



また、上皇方についての貴族や西日本の武士の領地を取り

上げ、地頭に東日本の御家人を任命した(恩賞として土地を与えた)。これによって、幕府の支配力は西日本にも広がっていちだんと強まった。

※入試出題頻度：「六波羅探題◎：朝廷を監視するため◎」「上皇方についての貴族や西日本の武士の領地を取り上げ、地頭に東日本の御家人を任命○→幕府の支配が西日本にも広がった○」「隠岐(地図△)」

[承久の乱の後]

後鳥羽上皇→隠岐

六波羅探題：朝廷の監視

幕府の支配が西日本にも広がった

[問題]

次の文中の①，②に適語を入れよ。

源氏の将軍が絶えると、1221年に後鳥羽上皇は鎌倉幕府をたおそうとして兵を挙げた。幕府は後鳥羽上皇を破って(①)に流し、朝廷を監視するため(②)を京都に置いた。

(千葉県改)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 隠岐 ② 六波羅探題

[問題]

六波羅探題は、鎌倉幕府の成立当初には設置されておらず、1221年に起こった承久の乱の後に京都に設置された。鎌倉幕府が承久の乱の後に六波羅探題を設置したねらいを、「朝廷」の語を使って、簡潔に書け。

(高知県)

[解答欄]

--

[解答]幕府が朝廷を監視するため。

[問題]

直子さんは、承久の乱後における鎌倉幕府の政治と支配について、次のように説明した。文中の①，②の()内からそれぞれ適語を選べ。

幕府は京都に①(京都所司代／六波羅探題)において、朝廷を監視した。また、上皇側に味方した貴族や武士から取り上げた土地を②(東国の武士／西国の武士)に与え、幕府の支配を固めた。

(群馬県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 六波羅探題 ② 東国の武士

[問題]

承久の乱の影響について述べた次の文中の①～③の()内からそれぞれ適語を選べ。

この乱の結果、①(朝廷／幕府)の支配が、②(東日本／西日本)だけでなく、③(東日本／西日本)にもおよぶこととなった。

(新潟県)

【解答欄】

①	②	③
---	---	---

【解答】① 幕府 ② 東日本 ③ 西日本

【問題】

承久の乱の後、幕府の支配力はどのように変化したか、簡潔に書け。

(群馬県)

【解答欄】

--

【解答】幕府の支配力は東日本だけでなく西日本にまで及ぶようになった。

【問題】

次の X に当てはまる内容を「土地」「東日本の武士」という 2 つの語句を用いて書け。

鎌倉幕府が成立したころ、その支配の及ぶ範囲は限られていた。しかし、承久の乱の後、京都に六波羅探題をおいて朝廷を監視するとともに、(X) ことで西日本にも幕府の力が広く及ぶようになった。

(岡山県)

【解答欄】

--

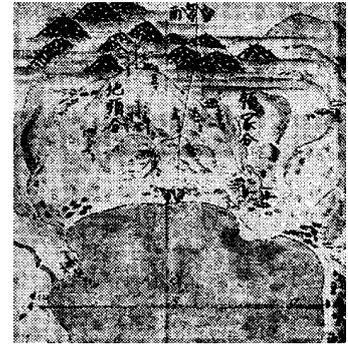
【解答】上皇に味方した貴族や西日本の武士の土地を取り上げ、その場所の地頭に東日本の武士を任命した

【】 御成敗式目

[地頭の荘園侵略]

[問題]

右の資料は、土地を地頭と領家(荘園領主)とに分けたことを示す絵図である。この説明として適切なものを、次のア～エの中から1つ選び、その記号を書け。



ア 地頭が登場した奈良時代のもので、当時の土地の支配のようすを知ることができる。

イ 地頭が登場した平安時代のもので、当時の土地の支配のようすを知ることができる。

ウ 地頭が力を強めてきた鎌倉時代のもので、地頭が荘園領主と同等の力を持って土地を支配しているようすを知ることができる。

エ 地頭が地方の行政官として派遣された戦国時代のもので、荘園領主と協力し合って土地を支配しているようすを知ることができる。

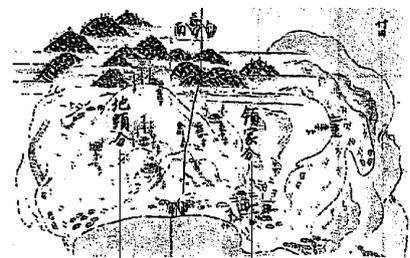
(青森県)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

所領支配を拡大しようとする武士たちは、荘園・公領の領主や、近隣の武士とのあいだで年貢の徴収^{ねんぐ ちようしゆう}や境界の問題をめぐって紛争をおこすことが多かった。とくに承久の乱後には、畿内・西国地方にも多くの地頭が任命され、荘園への支配権を拡大したため、荘園領主との間で争いが激しくなった。この争いは幕府によって裁かれ、右の地図のよ



地頭分 領家分(領主分)

うに、土地を地頭と領家で分け合う下地中分^{したじちゅうぶん}が行われたり、地頭が一定の額の年貢をうけ負って、領主におさめるようになっていたりした。こうして、土地に対する地頭の権利は、しだいに領主と同じように強いものになっていった。

※入試出題頻度：「地頭が荘園への支配権を拡大△→下地中分△」

[問題]

地頭の勢力が強くなり荘園への支配権を拡大していったため、荘園領主との間で争いが激しくなった。荘園領主は幕府に訴えて地頭の年貢未納をおさえようとした。しかし、現地に根を下ろした地頭の行動を阻止することは難しかったため、荘園の半分を地頭に分ける妥協などが行われた。下線部を何というか。漢字4字で答えよ。

(補充問題)

[解答欄]

[解答]下地中分

[問題]

Mさんは、鎌倉時代における、地頭と頼家(荘園の領主)の争いが読みとれる右の資料をみつけた。資料から、ここでの争いはどのように解決されたのかを、「地頭」という語句を使って書け。

(埼玉県)

[解答欄]

[解答]土地を地頭と領家で分け合った。



[御成敗式目]

[問題]

次の文は、北条泰時が御家人の権利や義務などの武家社会の慣習を法律としてまとめたものの一部である。この法律を何というか。

- 一 諸国の守護の職務は、京都の御所の警護と、謀反や殺人などの犯罪人を取りしめることである。
- 一 武士が、20年をこえる間、実際にその土地を支配しているならば、その支配を認める。

(福島県)

[解答欄]

[解答]御成敗式目

[解説]

この当時の法律としては、朝廷の律令などがあったが、ほとんど空文化^{くうぶんか}していた。武家社会においては、武士がそれまで育ててきた慣習^{かんしゅう}や道徳^{どうとく}を重んじ、紛争^{ぶんそう}を処理する規範^{きはん}としてきた。しかし、当時道理と呼ばれた慣習や道徳は、地域によって異なったり、相互に矛盾^{むじゆん}したりする場合もあった。また、承久^{じょうきゅう}の乱の後、西日本にも東日本の武士が地頭として進出したため、現地の支配権をめぐる荘園領主などとの争いが拡大した。

[御成敗式目]

武士の慣習をもとに
裁判の基準を定め、
争いを公正に解決するため
1232年 北条泰時が制定

こうした状況に対応するためもあって、1232年、執権の北条泰時^{ほうじょうやすとき}は、武士の慣習をもとに裁判の基準を定め、争いを公正に解決するために御成敗式目^{ごせいばいしきもく}(貞永式目^{じょうえい})を制定した。(御成敗式目、一文(ひとふみ)に(1232))

※入試出題頻度：「御成敗式目◎」「北条泰時○」「武士の慣習をもとに裁判の基準を定め△、争いを公正に解決するため△」

[問題]

13世紀前半、鎌倉幕府は武士の社会の慣習をもとに御成敗式目を制定した。次の文は、御成敗式目について述べたものである。文中の①、②の()内からそれぞれ適語を選べ。

鎌倉幕府の三代執権の①(北条時政／北条泰時)は、武士の社会の慣習にもとづく法である御成敗式目を②(応仁の乱／承久の乱)の後に制定し、支配を全国に広げた。

(大阪府)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 北条泰時 ② 承久の乱

[問題]

①1232年に制定された、御家人の権利や義務などの武士の慣習や、裁判の基準についてまとめた法律を何というか。②また、この法律をつくった執権の名前を答えよ。

(山口県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 御成敗式目 ② 北条泰時

[問題]

次の文章中の①、②の()内からそれぞれ適語を選べ。

鎌倉幕府の権力の拡大とともに、地頭の勢力も次第に強まり、荘園領主との間で争いがおこった。特に、①(承久の乱／壬申の乱)後は、西日本にも東日本の武士が地頭として進出したため、現地の支配権をめぐる争いが拡大した。こうした状況に対応するため、幕府は御成敗式目を制定し、②(御家人に有利な／公平な)裁定を下すように努めた。

(山口県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 承久の乱 ② 公平な

[問題]

次の文章は、御成敗式目が制定された背景について述べたものである。あとのア～エのうち、Xに当てはまる内容として最も適切なものはどれか。その記号を書け。

承久の乱の後、鎌倉幕府の支配が西日本に広がり、(X)の間で土地をめぐる争いが増加した。幕府は、このような争いに対応するため、武士の社会の慣習に基づいて御成敗式目を制定し、裁判の基準とした。

ア 諸国の武士と朝廷を思うように動かすようになった平氏

イ 国内の武士と一国を支配するようになった守護大名

ウ 荘園の領主と地頭に任命された武士

エ 都から派遣された国司と地方の豪族から任命された郡司

(広島県)

[解答欄]

[解答]ウ

[問題]

北条泰時は御成敗式目を制定した。この法令を制定した目的を、「慣習」、「公正」の2つの語句を用いて書け。

(新潟県)

[解答欄]

[解答]武士の慣習をもとに裁判の基準を定め、争いを公正に解決するため。

[問題]

次の資料は、鎌倉時代に定められた御成敗式目について書かれた手紙の一部の要約である。後の各問いに答えよ。

「ところでこの御成敗式目は何を根拠として制定したものかと、京都の公家たちが非難するかもしれない。そのとおりこれといった中国の書籍によったわけではなく、ただ武家社会の道理を書き記したものである。こうした規定を前もって制定しておかないと、幕府の裁判において事実の真理によらず、原告と被告の力のちがいによって判決がなされたり、以前の判決の例を無視して裁判がおこされたりすることがある。」

(1) 御成敗式目を定めた人物の名前を書け。

(2) (1)の人物は何という地位についていたか。その職名を書け。

(3) 御成敗式目は、どんなことを定めた法律か。資料を参考にして書け。

(熊本県)

[解答欄]

(1)	(2)	(3)
-----	-----	-----

[解答](1) 北条泰時 (2) 執権 (3) 公平な裁判を行うための基準

[問題]

御成敗式目について、この決まりの内容の一部として適当なものを、次のア～エの中から1つ選べ。

ア 本拠である朝倉館のほか、国内に城を構えてはならない。全ての有力な家臣は、一乗谷に引っ越し、村には代官を置くようにせよ。

イ 諸国の守護の職務は、国内の御家人を京都の警備に当たらせること、謀反や殺人などの犯罪人を取り締まることである。

ウ 所領の質入れや売買は、御家人の生活が苦しくなるもとなので、今後は禁止する。

エ この安土の町は楽市としたので、いろいろな座は廃止しさまざまな税や労役は免除する。

(福島県)

[解答欄]

[解答]イ

[解説]

アは戦国時代の分国法の1つ。イは御成敗式目。ウは鎌倉時代の徳政令。エは織田信長の楽市・楽座令。

[問題]

次の資料のXに当てはまる、国ごとに置かれた役職の名を書け。

(資料)御成敗式目(部分要約)

一諸国の(X)の職務は、頼朝公の時代に定められたように、京都の御所の警備と、謀反や殺人などの犯罪人の取りしまりに限る。

(岐阜県)

[解答欄]

[解答]守護

[問題]

御成敗式目が制定された時期を，次のア～エから 1 つ選んで記号で書け。
平氏滅亡－ア－承久の乱－イ－元寇－ウ－永仁の徳政令－エ－建武の新政
(福井県改)

[解答欄]

[解答]イ

[解説]

この法律は御成敗式目^{ごせいばいしきもく}である。御成敗式目制定の理由の 1 つが，承久の乱後に急増した地頭と荘園領主の間の争いを公平に裁くための法律を制定することにあつたことがわかっていれば，承久の乱→御成敗式目の順になると気づくはずである。

[問題]

次のア～ウを年代の古い順に並べよ。

ア 御成敗式目が制定される。

イ 承久の乱がおこる。

ウ 六波羅探題がおかれる。

(徳島県)

[解答欄]

[解答]イ→ウ→ア

[解説]

イ(承久の乱 1221 年)→ウ(六波羅探題)→ア(御成敗式目 1232 年)

【】 武士と民衆の生活

[武士の生活]

[問題]

武士は、日ごろから馬や弓矢の武芸にはげみ、心身をきたえていた。また、戦いのときは、一族の長である(管領／組頭／郡司／惣領)を中心にして、一族がまとまって行動した。文中の()より適語を選べ。

(三重県)

[解答欄]

[解答]惣領

[解説]

武士は荘園や公領に堀と塀をめぐらせた館を構えて生活し、土地の開発を進め、下人や農民を使って農業を営んでいた。

武士は常に馬や弓矢の武芸によって心身をきたえた。「弓馬の道」, 「武士(もののふ)の道」と呼ばれる、名を重んじ、恥を知る態度などの武士らしい心構えが育っていった。武芸の訓練方法としては、例えば、馬の上からの的にした笠懸を射る流鏑馬などがある。

武士の家は、一族の長である惣領が中心となって子や兄弟などをまとめ、団結していた。領地は分割相続で、女子にもあたえられたので、女性の地頭も多くいた。

※入試出題頻度：この単元はときどき出題される。

[武士の生活]

- ・弓馬の道
- ・笠懸, 流鏑馬, 犬追物
- ・堀と塀をめぐらせた館
- ・惣領, 分割相続

(武士の館)



(笠懸)



[問題]

鎌倉時代、武士は日頃から武芸の鍛錬をしていた。その理由として適当でないものを、次のア～エのうちから1つ選び、記号で答えよ。

- ア 倭寇を取り締まるため。
- イ 御恩と奉公の義務を負ったため。
- ウ 戦において手柄を取るため。
- エ 先祖から引き継いできた領地を守るため。

(沖縄県)

[解答欄]

[解答]ア

[解説]

アの倭寇は、室町時代である。

[問題]

次の文中の①、②の()内からそれぞれ適語を選べ。

鎌倉時代の武士には、①(地頭／守護)として土地の管理や年貢の取り立てを行った者もいた。武士は一族の長が子や兄弟などをまとめ、武士が亡くなると領地は分割して一族の②(男性のみ／男性と女性)に相続された。

(北海道)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 地頭 ② 男性と女性

[解説]

鎌倉時代の前半は分割相続が行われており、男子だけでなく女子も土地などを相続した。

[問題]

右の資料は、鎌倉時代の武士の館を示した図である。

この図を参考にして、武士の館の特徴を、「防備」の語句を用いて簡潔に書け。

(奈良県)

[解答欄]



--

[解答]土べいや堀を周囲にめぐらせて防備しやすいつくりになっていた。

[解説]

鎌倉時代の武士は、それぞれの領地に館やかたを構えて住み、下人や農民を使って農業を営んで生活していた。屋敷は板ぶきの簡素なもので、外敵の侵入に備えるために、土べいや堀を周囲にめぐらせていた。

[二重支配を受ける農民]

[問題]

次の資料の X にあてはまる役職名を答えよ。

荘園領主様への材木の納入が遅れていることについてですが、(X)が、上京する時や近くでの工事の時などに人夫が必要だと言っては大勢の者をこき使いますので、暇がありません。残ったわずかの者で山から材木を運ぼうとしたところ、逃亡した農民の耕地に麦をまけと、(X)に追い返されてしまいました。

(青森県)

[解答欄]

[解答]地頭

[解説]

地頭は、荘園領主に納める年貢の取り立てを請け負い、田畑・山野や河川・海などから取れる産物の一部を自分の物とした。荘園や公領の農民たちは、荘園領主へ納める年貢だけでなく、地頭に対するさまざまな労役なども負担しなければならず、二重の支配に苦しめられることもあった。

※入試出題頻度：「荘園領主と地頭による二重の支配△」

[問題]

次の資料は、鎌倉時代に、紀伊国の荘園の農民が書いた訴状の一部である。資料から、鎌倉幕府が成立したのちに、農民がだれから負担を課せられていたかが読み取れる。鎌倉幕府が成立したのち、農民はだれから負担を課せられていたか。資料の中の語を用いて、鎌倉幕府が成立する前との違いが分かるように、簡単に書け。

(資料)

荘園領主様への材木の納入が遅れていることについてですが、地頭が、上京する時や近くでの工事の時などに人夫が必要だと言っては大勢の者をこき使いますので、暇がありません。残ったわずかの者で山から材木を運ぼうとしたところ、逃亡した農民の耕地に麦をまけと、地頭に追い返されてしまいました。

(静岡県)

[解答欄]

[解答]荘園領主に加えて、地頭からも負担を課せられていた。

[農業の発達]

[問題]

中世のわが国では、牛や馬を利用して田を耕すなど、さまざまな方法を用いた農業が行われたが、米の裏作として麦をつくることも行われた。このように、同じ耕地で年2回、別の作物をつくることを何というか。

(三重県)

[解答欄]

[解答]二毛作

[解説]

鎌倉時代、農業生産が向上した。これに関して、よく出題されるのは、二毛作の普及である。二毛作は表作として米を作り、裏作として麦を作るものであったが、土地がやせるのをふせぐために、草や木を焼いた灰が肥料として使われた。また、1つの土地を水田として利用した後、水を落として畑として使い、翌年ふたたび水を引き込んで水田にするためには、灌漑用水の整備や田畑の耕作など手間がかかるようになった。牛や馬の利用、鉄製の農具の普及による農作業の効率化によって、こうしたことが可能になったと考えられる。

[鎌倉時代の農業の発達]

二毛作(米と麦)

牛馬, 肥料(草木灰), 鉄製農具

※入試出題頻度：「二毛作◎」「牛馬△」「草木灰△」

[問題]

鎌倉時代を含む中世の農業について述べているのはどれか。

- ア 千歯こきなどの農具の改良が進み、肥料として干鰯が使用された。
- イ 二毛作などが普及して生産性が高まり、各地で定期市が開かれた。
- ウ 幕府などにより、海や沼地を干拓する大規模な新田開発が進んだ。
- エ 国家から口分田が与えられ租という税が課せられた。

(栃木県)

[解答欄]

[解答]イ

[解説]

アとウは江戸時代である。イは鎌倉～室町(中世)である。エは奈良時代である。

[問題]

佳子さんは、中世における農業を説明するために、資料Ⅰ、Ⅱを準備した。この時代に農業生産が高まった背景として考えられることを、資料Ⅰ、Ⅱをもとに、「農業技術」という語を使って書け。

(資料Ⅰ)

鎌倉時代に出された法令(一部)

諸国の百姓は田の稲を刈り取った後、そこに麦をまいている。これを田麦とよんで、領主らはその年貢を徴収しているということである。文永元(1264)年4月26日

(宮崎県)

(資料Ⅱ) 田おこしの様子



[解答欄]

[解答]牛を使って田や畑を耕したり、裏作に麦をつくる二毛作が広まったりするなど、農業技術が向上した。

[商工業の発達]

[問題]

右は一遍上人絵伝という絵巻物の一部で、当時の(X)のようすが描かれている。このころには、交通の要所で(X)が開かれ、さまざまな品物が取引されていた。

(岡山県)



[解答欄]

[解答]定期市

[解説]

農業生産の向上は、農業以外にたずさわる人々を生み出す^{よゆう}余裕を社会に与え、農村には、農具を作る^{かじや}鍛冶屋や^{そめもの}染物をあつかう^{こんや}紺屋などの手工業者が住みついた。

寺社の門前や交通の便利
なところで、定期市



寺社の門前や交通の便利なところでは、^{ていきいち}定期市が開かれ、これらの物資が売買されるようになった。定期市では、中国から輸入された宋銭が使われていた。

※入試出題頻度：「定期市○」

[問題]

右の絵は、ある絵巻物の一部である。この絵について述べた次の文の①、②の()の中から最も適当なものを、それぞれ選べ。

右の絵の中には、①(中世／近世)の②(武士の館／市)の様子が描かれている。



(愛媛県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 中世 ② 市

[問題]

鎌倉時代の社会の様子として当てはまらないのはどれか。1つあげよ。

- ア 米と麦を交互に作る二毛作がはじまり、農業生産力が高まった。
- イ 荘園や公領に地頭が設置され、年貢の徴収をうけ負った。
- ウ 戸籍に登録された人々に口分田が与えられ、租などの税が課された。
- エ 寺社の門前や交通の便利な所において、月に3回の定期市が開かれた。

(栃木県)

[解答欄]

--

[解答]ウ

[解説]

ウは奈良時代の班田収授法である。

[問題]

鎌倉時代の市では、中国から輸入された貨幣が使われていた。この貨幣を製造していた中国の王朝を、次のから1つ選べ。

[宋 隋 清 漢]

(山口県)

[解答欄]

--

[解答]宋

【】鎌倉時代の文化と宗教

【】鎌倉時代の文化

[東大寺南大門・金剛力士像]

[問題]

右は、東大寺南大門の両脇に置かれている2体の彫刻で、
運慶が作ったものである。この彫刻の名称を書け。



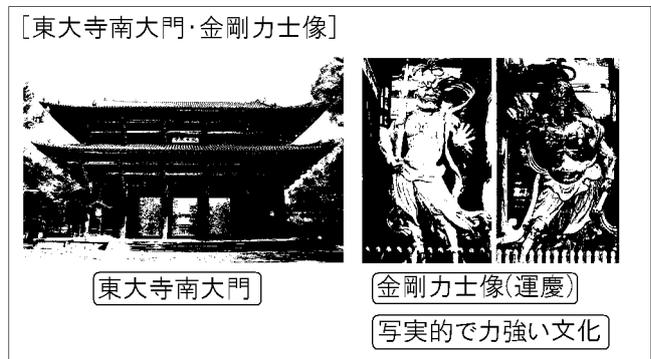
(青森県)

[解答欄]

[解答]金剛力士像

[解説]

鎌倉時代には、平安時代の文化を受けつぎつつ、宋の文化や武士の好みを反映した、写実的で力強い文化が生まれた。この時代の代表的な彫刻は金剛力士像で、運慶の作である。写実的で力強いのが特徴である。金剛力士像が置かれている東大寺南大門(現在の奈良市にある)は鎌倉時代に再建された。現在の7階建ての建物ほどの高さがある大建築で、中国の影響を受けている。



※入試出題頻度：「東大寺南大門○」「金剛力士像◎：運慶○」「写実的で力強い○」

[問題]

東大寺南大門の両わきには、巨大な仏像が安置されている。この仏像の作者名を1人書け。

(福井県)

[解答欄]

[解答]運慶

[問題]

鎌倉時代に、平氏によって焼かれたある寺院が再建された。この寺院の南大門には、金剛力士像がおさめられている。この寺院の名前を書け。

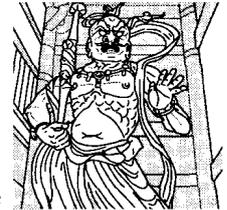
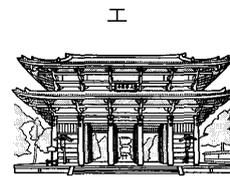
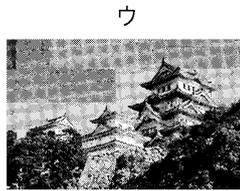
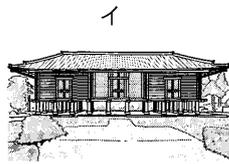
(秋田県)

[解答欄]

[解答]東大寺

[問題]

東大寺にある右図の作品が作られた時代と同じ時代の建造物を、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。



(島根県)

[解答欄]

[解答]エ

[解説]

アは室町時代の金閣寺。イは奈良時代の正倉院。ウは安土桃山～江戸時代の天守閣。エは鎌倉時代の東大寺南大門。

[問題]

東大寺について述べた次の文を読んで、後の各問いに答えよ。

東大寺は、平城京に都が置かれていた(①)時代に建てられた。その後、平安時代の終わりころに始まった源氏と(②)氏との争乱の中で焼けたが、鎌倉時代に再建され、南大門には、運慶らによってつくられ像が置かれた。

(1) ①, ②に当てはまる語句をそれぞれ書け。ただし, ②の語句については, 漢字1字で書くこと。

(2) 下線部を何というか, I群の[]から選べ。また, この像を, II群のア～ウから選べ。

(I群) [阿弥陀如来像 釈迦三尊像 金剛力士像]

(II群)



(北海道)

[解答欄]

(1)①	②	(2)I群:	(4)II群:
------	---	--------	---------

[解答](1)① 奈良 ② 平 (2)I群: 金剛力士像 II群: ア

[問題]

右の資料は、鎌倉時代の代表的な彫刻である。
この彫刻にみられるような鎌倉文化の特徴を、
簡潔に書け。

(奈良県)

[解答欄]



(東大寺南大門の金剛力士像)

[解答]写実的で力強い文化

[問題]

鎌倉時代の文化の特色として最も適するものを次のア～エから1つ選べ。

- ア 京都の貴族の文化と武士の文化が、混じり合った文化
- イ 大名や豪商の権力や富を背景にした、豪華で壮大な文化
- ウ 力を伸ばした武士の気風に合った、写実的で力強い文化
- エ 唐からもたらされた文化の影響を受けた、国際的な文化

(徳島県)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

アは室町時代の文化。イは桃山文化。ウは鎌倉時代の文化。エは奈良時代の天平文化。

[文学]

[問題]

琵琶法師が各地をめぐって民衆に語った「祇園精舎の鐘の声」ではじまる軍記物語は何か。

(山口県)

[解答欄]

[解答]平家物語

[解説]

「^{ぎおんしやうじゃ}祇園精舎^{かね}の鐘^{しぎやうむじやう}の声^{ひびき}、諸行無常の響きあり。…」で始まるのは平家物語である。平氏の繁栄から没落までをえがいた平家物語は、琵琶法師によって広められた。和歌集としては、後鳥羽上皇の命令で藤原定家らが編集した新古今和歌集がある。

[文学]

平家物語(琵琶法師)

新古今和歌集(後鳥羽上皇)

徒然草(兼好法師), 方丈記(鴨長明)

ずいひつ 随筆としては、^{けんこうほうし}兼好法師の^{つれづれぐさ}徒然草(「つれづれなるままに、日ぐらし^{すずり}硯にむかいて…」),
^{かものちょうめい}鴨長明の^{ほうじょうき}方丈記(「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。…」)がある。
 ※入試出題頻度：「平家物語◎：琵琶法師○」「新古今和歌集○：後鳥羽上皇△藤原定家△」
 「徒然草○：兼好法師△」「方丈記△：鴨長明△」

[問題]

右の資料は、武士や民衆の間に平家物語を広めた人を描いたものである。このような人を何と呼ぶか。その名称を書け。

(奈良県)



[解答欄]

[解答]琵琶法師

[問題]

次のア～エのうち、平家物語を説明したものはどれか。1つ選んで、その記号を書け。

- ア 義理と人情の世界に生きる男女の悲劇を感動的に描いている。
- イ 地方の国ごとに、自然、産物、伝説などを記している。
- ウ 日本の国家のおこりを、神話や伝承・記録をもとにまとめている。
- エ 琵琶法師によって語られ、漢語や口語を交え、武士の活躍を描いている。

(香川県)

[解答欄]

[解答]エ

[問題]

次の①～③にあてはまる文学作品を答えよ。

- ① 後鳥羽上皇の命令で藤原定家らが編集した和歌集。
- ② 鴨長明が社会のむなしさを説いた随筆。
- ③ 兼好法師が書いた随筆。

(補充問題)

[解答欄]

①	②	③
---	---	---

[解答]① 新古今和歌集 ② 方丈記 ③ 徒然草

【】 鎌倉仏教

[鎌倉仏教の特色]

[問題]

鎌倉時代には、浄土宗などの仏教の新しい教えが、民衆や武士のあいだに広まったが、その理由として、最も関係のあるものを、次のア～エの中から1つ選べ。

ア 天皇が、仏教の力にたよって国家を守ろうとした。

イ 中国から帰国した最澄や空海が、仏教の新しい教えを日本に伝えた。

ウ 南蛮貿易の利益に着目した大名が、その教えを保護したり、信者となったりした。

エ 新しい教えは、簡単でわかりやすく、実行しやすいものだった。

(茨城県)

[解答欄]

[解答]エ

[解説]

鎌倉時代にあらわれた仏教の各宗派^{しゅうは}は、分かりやすく、実行しやすかったので、民衆や武士の間に広がっていった。

※入試出題頻度：「分かりやすく、実行しやすかった○

→民衆や武士に広がる△」

[鎌倉仏教の特色]

分かりやすく、実行しやすかった

↓
民衆や武士の間に広がる

[問題]

鎌倉時代に、浄土宗や日蓮宗などの新しい仏教が多くの武士や庶民に受け入れられた理由を、次の表を参考に書け。

真言宗	山奥の寺で学問やさまざまな厳しい修行を行う。儀式や祈りで災いを取り除く。
浄土宗	一心に念仏を唱えることで救われる。
日蓮宗	題目を唱えることで、人も国家も救われる。

(山梨県)

[解答欄]

[解答]わかりやすく、実行しやすかったから。

[念仏の系統(浄土宗・浄土真宗・時宗)]

[問題]

阿弥陀如来を信じて念仏をとなえれば救われると説き、浄土宗を開いた僧は、次のうちのどれか。

[空海 道元 最澄 法然]

(神奈川県)

[解答欄]

[解答]法然

[解説]

鎌倉時代には、新しい仏教の教えが広まった。その代表的なものは、平安時代の浄土信仰の流れをくむ念仏(南無阿弥陀仏)の系統である。法然は浄土宗を開き、きびしい修行を行わないでも、阿弥陀仏にすぎり「南無阿弥陀仏」と唱えさえすれば極楽浄土に往生できる

と説いた。法然の弟子の親鸞は浄土真宗を開き、「善人ですら往生できる、まして悪人ならなおさらのことだ」という悪人正機説を唱えた。ここでいう「悪人」とは「悩みの多い人」という意味である。慈悲深い阿弥陀仏は、こうした悩める人こそ救おうとしているのだと説いた。一遍は時宗を開き、布教の方法として、念仏札や右図のような踊念仏を取り入れ、全国を歩きまわって布教した。(かねをたたき、足をふみならして「南無阿弥陀仏」を唱える様子がうかがえる)

[念仏(南無阿弥陀仏)の系統]	
浄土宗:法然	念仏
浄土真宗:親鸞	念仏, 悪人正機説
時宗:一遍	踊念仏



(踊念仏)

※入試出題頻度:「念仏(南無阿弥陀仏)△」「浄土宗○:法然○」「浄土真宗◎:親鸞○」「時宗○:一遍◎, 踊念仏○」

[問題]

次の文中の①, ②に適語を入れよ。

法然は、「南無阿弥陀仏」と(①)を唱えるだけで誰でも死後、極楽に行けると説き、(②)宗を開いた。

(熊本県改)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 念仏 ② 浄土

[問題]

①「阿弥陀仏の救いを信じる心さえあればよく、自分の罪を自覚した悪人こそ救われる」と説いた僧(法然の弟子)は誰か。②また①が開いた宗派を何というか。

(鳥取県改)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 親鸞 ② 浄土真宗

[問題]

右の写真は、踊念仏で信仰を広めている様子をあらわしたものである。その宗派を、次から1つ選べ。

[日蓮宗 曹洞宗 浄土宗 時宗]

(鳥取県)

[解答欄]

[解答]時宗



[問題]

右の図は、鎌倉時代に現在の岡山県に開かれた定期市で、ある人物が仏教の教えを広めるようすを描いたものである。この人物は、諸国をまわり、念仏の札を配ったり、踊念仏を取り入れたりすることで念仏の教えを広め、時宗を開いた。この人物は誰か。その人物名を書け。

(香川県)

[解答欄]

[解答]一遍



[禅宗]

[問題]

右の写真は、石川県内のある寺において、この仏教で行われる修行を体験している様子を示したものである。この修行を特色とする仏教を何というか。漢字2字で答えよ。

(石川県)



[解答欄]

[解答]禅宗

[解説]

鎌倉仏教の第二の系統は、禅宗である。栄西や道元は、座禅によって自分の力でさとりを開こうとする禅宗を宋から伝え、栄西は臨濟宗を、道元は曹洞宗を開いた。禅宗は武士の気風によく合ったため、武士の間に広がり、幕府の保護を受けた。

※入試出題頻度：「禅宗○」「宋△」「座禅によってさとりを開く○」「臨濟宗△：栄西○」「曹洞宗△：道元○」

〔禅宗〕 宋から伝わる

座禅によってさとりを開く

武士の間に広がる

臨濟宗：栄西

曹洞宗：道元

[問題]

栄西や道元が宋から伝えた仏教は武士に受け入れられ幕府によって保護された。この仏教の特色を述べたものとして最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、その記号を書け。

- ア 南無阿弥陀仏と一心に念仏を唱える。
- イ 念仏の札の配布や踊念仏によって布教する。
- ウ 座禅によって自分でさとりを開く。
- エ 南無妙法蓮華経と題目を唱える。

(奈良県)

[解答欄]

[解答]ウ

[問題]

次の文中の①、②の()内からそれぞれ適語を選べ。

栄西や道元が①(元／宋)から伝えた禅宗は、鎌倉時代に②(貴族／武士／農民)を中心に信仰された。

(熊本県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 宋 ② 武士

[問題]

宋で禅宗を学び、日本に臨濟宗を伝えるとともに、茶を飲む習慣をもたらした人物はだれか。次の[]から1つ選べ。

[日蓮 栄西 一遍 道元]

(新潟県)

[解答欄]

[解答]栄西

[問題]

次の表は、宋から帰国した僧が開いた禅宗について示したものである。表中の a, b にあてはまる人物の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

日本で開いた教え	臨濟宗	曹洞宗
開いた僧	a	b

ア : a 栄西, b 親鸞 イ : a 栄西, b 道元

ウ : a 法然, b 親鸞 エ : a 法然, b 道元

(山口県)

[解答欄]

[解答]イ

[日蓮宗]

[問題]

法華経を信仰することで人も国家も救われると説き、新しい宗派を開いた人物は誰か。

(島根県)

[解答欄]

[解答]日蓮

[解説]

鎌倉仏教の第三の系統は、だいもく なむみょうほうれんげきょう題目(南無妙法蓮華経)の系統である。
にちれん日蓮はほっけしゅう日蓮宗(法華宗)を開き、ほっけきょう法華経こそ仏教の根本であると説き、他宗をきびしく批判した。

[日蓮宗(法華宗)]

開祖は 日蓮

題目 南無妙法蓮華経

※入試出題頻度:「日蓮宗○:日蓮○」「題目○(南無妙法蓮華経△)」

[問題]

次のア～ウの文のうち、栄西と日蓮について説明したものはそれぞれどれか。

- ア 念仏を唱え、阿弥陀仏にすがれば極楽浄土に往生できると説いた。
- イ 座禅によって自分の力で悟りを開く教えを伝えた。
- ウ 法華経を重んじ、題目を唱えれば、国家も人も救われると説いた。

(千葉県)

[解答欄]

栄西：	日蓮：
-----	-----

[解答]栄西：イ 日蓮：ウ

[全般]

[問題]

鎌倉新仏教の宗派とそれを開いた人物の組み合わせとして正しいものを、次のア～エの中から1つ選び、記号を書け。

- ア 浄土宗－法然 イ 時宗－親鸞
- ウ 天台宗－栄西 エ 浄土真宗－日蓮

(佐賀県)

[解答欄]

--

[解答]ア

[問題]

13世紀、ききんや地震が相次いだことから、人々は仏教に新たな救いを求めるようになった。この時代に成立した仏教についての説明として誤っているものを、次のア～エのうちから1つ選び、記号で答えよ。

- ア 法然は、ひたすらに念仏を唱えれば、極楽浄土に往生できるとした。
- イ 栄西や道元が伝えた禅宗は、主に公家の間に広まっていった。
- ウ 一遍は踊念仏を行って各地へ布教し、時宗を開いた。
- エ 日蓮は、「南無妙法蓮華経」をととなえれば、人も国家も安らかになると説いた。

(沖縄県)

[解答欄]

--

[解答]イ

【解説】

イが誤り。禅宗は主に武士の間に広まった。

【問題】

鎌倉時代には、新しい仏教の教えが広まった。鎌倉時代の仏教について述べた文として適切でないものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア 道元は、中国から、座禅を重んじる禅宗の教えを伝えた。

イ 日蓮は、題目をとなえれば、人も国家も救われると説いた。

ウ 栄西は、師の教えをもとに、浄土真宗(一向宗)を開いた。

エ 法然は、一心に念仏をとなえれば、極楽往生できると説いた。

(山形県)

【解答欄】

【解答】ウ

【解説】

ウが誤り。師の教えをもとに、浄土真宗(一向宗)を開いたのは親鸞である。

【】 元寇～鎌倉幕府の滅亡

【】 モンゴル帝国

[チンギス・ハンとモンゴル帝国]

[問題]

次の文中の①，②に適語を入れよ。

13世紀の初め，(①)はモンゴル民族を統一した。(①)の子や孫は，その国を広大なユーラシア大陸の東西にまたがる(②)帝国に成長させた。

(愛知県改)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① チンギス・ハン ② モンゴル

[解説]

13世紀の初めに，モンゴル高原にチンギス・ハンが現れて，モンゴル帝国を築いた。その子孫は，東ヨーロッパまで領土を広げ，ユーラシア大陸をまたぐ広大な地域を支配した。モンゴル帝国は，海と陸の交通路を整え貿易を奨励したことで，東西の移動がしやすくなり，人やモノの交流が盛んになった。

※入試出題頻度：「チンギス・ハン○」「モンゴル帝国○」

「ユーラシア大陸の東西にまたがる大帝国→東西の移動がしやすくなる→人やモノの交流が盛んになった△」



[問題]

鎌倉時代の世界のできごとを述べた文として，正しいものを，次のア～エから1つ選べ。

ア モンゴル帝国は，中央アジアからヨーロッパの東側を含む広い領域を支配した。

イ スペインやポルトガルは，キリスト教を広めることなどをめざし，新たな航路を開拓した。

ウ 新羅は，唐と結んで百済と高句麗をほろぼし，唐の勢力を追い出して朝鮮半島を統一した。

エ ムハンマドは，唯一の神アッラーを信仰するイスラム教を始めた。

(新潟県)

[解答欄]

--

[解答]ア

[問題]

モンゴル帝国が右図のように、広い地域を支配したことで世界にどのような影響を与えたか。「移動」「交流」「東西」という言葉を使用して答えよ。



(補充問題)

[解答欄]

[解答]東西の移動がしやすくなり、人やモノの交流が盛んになった。

[フビライ・ハンと元]

[問題]

次の文中の①，②に適語を入れよ。

(①)は、モンゴル帝国の都を大都(北京)に移し、国号を(②)と定めた。

(山梨県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① フビライ・ハン ② 元

[解説]

第5代皇帝となった孫のフビライ・ハンは、13世紀半ばにモンゴルから中国にかけての地域に^{げん}元という中国風の国名をつけて首都を^{だいと}大都(現在の北京)に置き、^{こうらい}高麗を従えた後、^{そうなんそう}宋(南宋)をほろぼした。

イタリアの商人マルコ・ポーロはフビライに17年間仕え、帰国後、その体験をもとに「^{とうほうけんぶんろく}東方見聞録」(「世界の記述」)を著した。その中で日本のことを「黄金の国ジパング」として紹介した。

※入試出題頻度：「フビライ・ハン◎」「元○」「大都△」

「宋(南宋)△」「マルコ・ポーロ△」

[フビライ・ハン]

1271年 フビライ・ハン、元(大都)
マルコ・ポーロ：「東方見聞録」



[問題]

元を訪れ「東方見聞録」の中で日本を「黄金の国ジパング」と紹介したイタリア人は誰か。

(和歌山県)

[解答欄]

[解答]マルコ・ポーロ

[問題]

次の文中の①，②の()内より適語を選べ。

元軍は，中国で発明された①(火薬／蒸気機関)を，実戦に取り入れ日本への遠征でも使用した。(①)は，西方にも伝えられた。一方，イスラムの数学や天文学が中国にもたらされた。また，②(マルコ・ポーロ／バスコ・ダ・ガマ)のように中国を訪れるヨーロッパ人もあらわれた。

(千葉県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 火薬 ② マルコ・ポーロ

【】元寇

【問題】

次の文章中の①，②に適語を入れよ。

元のフビライは、日本を従えようと、使者を送ってきた。このとき、將軍の補佐役を務める(①)という地位に就き、政治の実権をにぎっていた北条時宗がフビライの要求を拒否したため、元軍は 1274 年(文永の役)と 1281 年(弘安の役)の 2 度にわたって日本に攻め込んだ。この 2 度にわたる元の襲来をあわせて(②)という。

(福島県改)

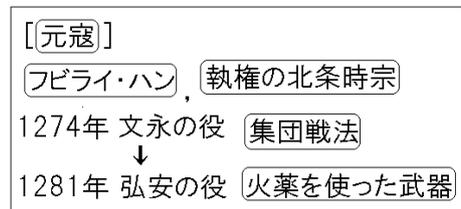
【解答欄】

①	②
---	---

【解答】① 執権 ② 元寇

【解説】

元のフビライ・ハンは高麗を征服した後、日本も従うようにと使者を送ってきた。幕府の執権北条時宗はこれを拒絶した。1274 年、元軍 3 万が九州の博多湾に上陸し、集団戦法と火薬を使った武器によって日本軍をなやましたすえ、内紛や暴風雨のために引き上げた(文永の役)。さらに、1281 年、約 14 万の大軍で、襲来した。幕府軍は、博多湾沿いに築いた石の防壁を利用して戦った。元の大軍は上陸できないまま、暴風雨に襲われて大損害を受けて退却した(弘安の役)。(一風灰に(1281)に弘安の役) この 2 度の元の襲来をあわせて元寇という。



※入試出題頻度：「元寇◎：文永の役○，弘安の役○」「フビライ・ハン○」

「執権の北条時宗◎」「集団戦法○」「火薬を使った武器○」

【問題】

次の文章中の①，②に適する人物名を入れよ。

元の皇帝(①)は、日本を従えようと、幕府に使者を送ってきたが、8代執権の(②)が、これを拒否したことから、元軍は博多湾に上陸した。

(北海道)

【解答欄】

①	②
---	---

【解答】① フビライ・ハン ② 北条時宗

[問題]

次の各問いに答えよ。

- (1) 元は2度にわたって日本に襲来したが、これをあわせて何というか。
- (2) (1)のうち、日本への1度目の襲来を何の役というか。

(福井県改)

[解答欄]

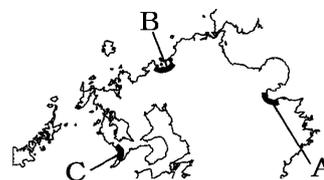
(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) 元寇 (2) 文永の役

[問題]

次の各問いに答えよ。

- (1) 元軍が襲来したときの鎌倉幕府の執権は誰か。その人物名を書け。
- (2) 元軍の2度目の襲来に備えて石の防壁が築かれたのはどこか。右の略地図中のA~Cから1つ選び、その記号を書け。



(奈良県)

[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) 北条時宗 (2) B

[問題]

国号を元とし、のちに宋をほろぼしたことで知られる皇帝(①)は、朝鮮半島の(②)を征服した後、元軍を博多湾沿岸に上陸させた。

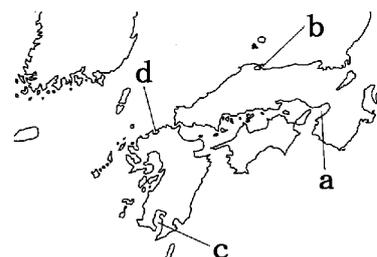
- (1) 文中の①, ②に適語を入れよ。
- (2) 博多湾の位置を略地図のa~dから選べ。

(北海道改)

[解答欄]

(1)①	②	(2)
------	---	-----

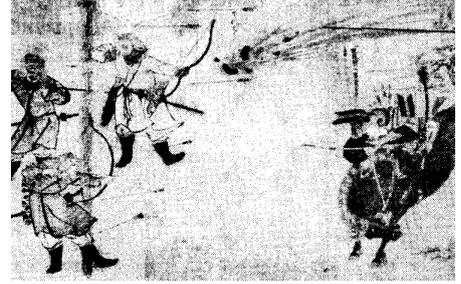
[解答](1)① フビライ・ハン ② 高麗 (2) d



[問題]

右の資料は鎌倉時代に元が日本をおそったできごとを描いたものである。これを見て、次の各問いに答えよ。

- (1) このできごとは何とよばれるか。漢字2字で答えよ。
(2) 元軍は、(①)戦法と(②)を使った武器で幕府軍をなやました。文中の①, ②に適する語をそれぞれ漢字2字で答えよ。



(沖縄県改)

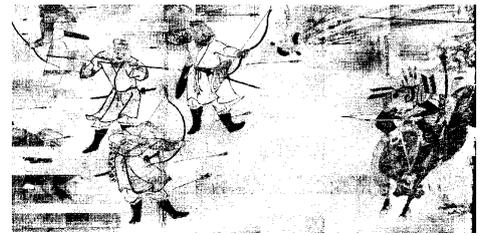
[解答欄]

(1)	(2)①	②
-----	------	---

[解答](1) 元寇 (2)① 集団 ② 火薬

[問題]

右の絵は元軍の最初の来襲における戦いのようすを描いたものである。この戦いで日本軍が苦戦をした理由を、この絵を参考にし、元軍の戦法と、日本の武士がそれまで見たことのない元軍の武器に着目して、簡単に書け。



(愛媛県)

[解答欄]

--

[解答]元軍が集団戦法と火薬を使った武器を使用したから。

[問題]

- モンゴル帝国や日本について、誤っているものを次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。
ア モンゴル民族から出たチンギス・ハンは、民族を統一して国家を建設した。
イ 5代目のフビライ・ハンは、都を大都に移し、国号を元と定めて皇帝となった。
ウ 元の軍は、集団戦法とすぐれた火器により、日本軍をなやましたすえ、引きあげた。
エ 元の襲来を防いだ武士たちは結束して、やがて鎌倉幕府を成立させた。

(宮崎県)

[解答欄]

--

[解答]エ

[問題]

次のア～エを，時期の古いきごとから順に並べかえ，記号で答えよ。

ア 御成敗式目が制定された。

イ 元のフビライが日本に遠征軍を送った。

ウ 京都に六波羅探題がおかれた。

エ 後鳥羽上皇が幕府を倒すため挙兵した。

(山形県)

[解答欄]

[解答]エ→ウ→ア→イ

[解説]

エ(承久の乱 1221 年)→ウ(六波羅探題)→ア(御成敗式目 1232 年)→イ(元寇 1274・1281 年)

【】 鎌倉幕府の滅亡

[御家人の不満]

[問題]

元寇のあと、戦った御家人たちは、幕府に恩賞としての(X)を求めたが、幕府にはあたえる十分な(X)はなかった。そのため、御家人たちの不満は高まっていった。Xに適語を入れよ。

(山梨県)

[解答欄]

[解答]土地

[解説]

国内の戦いに勝ったのであれば、倒した敵の土地を、てがらに
応じて恩賞^{おんしょう}として分け与えることになる。しかし、元寇^{げんこう}の
場合は、戦いに勝っても土地が増えたわけではなかった^{ので}、
幕府は御家人^{ごけにん}に恩賞として土地を与えることができなかった。

[御家人の不満]

幕府が恩賞として土地を
与えることができなかったから

当時は出陣のために要する費用はすべて自分持ちであったから、恩賞はそれを補うという意味もあったのである。恩賞を出さない(出せない)というのは、御恩^{ごおん}と奉公^{ほうこう}という関係から見れば、重大な契約違反といってもよいことなのである。御家人が幕府に対して不満をい^だくようになったのは当然のことである。

※入試出題頻度：「幕府が恩賞として土地を与えることができなかったから○」

「国内の戦いと違って、戦いに勝っても土地が増えたわけではなかったから△」

[問題]

次の文は、蒙古襲来(元寇)が、鎌倉幕府の力の衰退につながった理由について述べたものである。Xにあてはまる語句を書け。

蒙古襲来(元寇)に際し、御恩と(X)の関係で結ばれていた御家人は、元軍と戦いその費用を負担したが、幕府は彼らに十分な領地を与えることができなかった。このことにより、幕府に対する不満が高まり、幕府の力の衰退につながっていった。

(福島県)

[解答欄]

[解答]奉公

[問題]

元との戦いに参加した御家人は、鎌倉幕府に対して不満をもつようになった。その理由を、将軍と御家人の主従関係のしくみに関連づけて、簡単に書け。

(静岡県)

[解答欄]

[解答]奉公として元軍との戦いに参加したのに、恩賞の土地がもらえなかったため。

[問題]

御家人の多くは、元との戦いで活躍したにもかかわらず、十分な恩賞がもらえなかった。その理由を簡潔に述べよ。

(宮城県)

[解答欄]

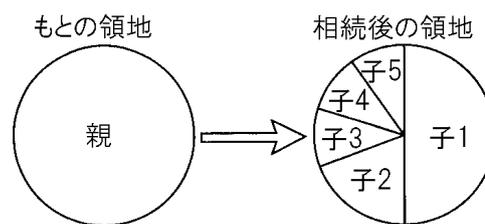
[解答]国内の戦と違い、幕府は恩賞として与えるための新たな土地を獲得したわけではなかったから。

[分割相続・徳政令]

[問題]

花子さんは、永仁の徳政令が出された背景について調べ、次のようにまとめた。右の資料を参考に、(まとめ)の①に当てはまる内容を書け。また、②に当てはまる中国の王朝名を、あとの[]の中から1つ選べ。

(資料) 鎌倉時代の御家人の土地相続の例



(まとめ)

御家人の領地は、複数の子どもが(①)。さらに、2度にわたる(②)との戦いがあり、御家人の生活は苦しくなった。

[隋 宋 元 明]

(茨城県)

[解答欄]

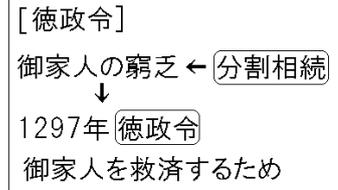
①	②
---	---

[解答]① 分割相続した ② 元

【解説】

鎌倉時代の中ごろから、鎌倉幕府を支える御家人の生活は苦しくなっていた。その原因は、分割相続である。当時は兄弟で親の財産(土地)を分けて相続する分割相続が行われていた。

承久の乱など国内の戦いで恩賞として領地を増やすことができる間はよかったが、戦いがなくなって領地の増加がなくなると、何代か分割相続をくりかえしていくうちに領地が細分化されてしまい、収入が減少し生活が苦しくなっていた。御家人のなかには、高利貸しからの借金が返せず土地を失う者が出てきた。幕府を支える御家人の窮乏を救うため、幕府は1297年に徳政令(永仁の徳政令)を出して、御家人の領地の質入れや売却を禁止し、それまでに売ったり質流れになったりした土地をもとの持ち主である御家人にただで返させることとした。しかし、これによっても御家人の窮乏を救うことはできず、かえって、それまで金を融通していた高利貸しが金を貸さなくなるなど逆効果になり、幕府の信用を失わせる結果になった。(皮肉な(1297)結果に徳政令)



幕府は1297年に徳政令(永仁の徳政令)を出して、御家人の領地の質入れや売却を禁止し、それまでに売ったり質流れになったりした土地をもとの持ち主である御家人にただで返させることとした。しかし、これによっても御家人の窮乏を救うことはできず、かえって、それまで金を融通していた高利貸しが金を貸さなくなるなど逆効果になり、幕府の信用を失わせる結果になった。(皮肉な(1297)結果に徳政令)

※入試出題頻度：「分割相続○」「徳政令(永仁の徳政令)◎：御家人を救済するため△」

【問題】

生活が苦しくなった御家人たちを救うなどの目的で、幕府は徳政令をだした。御家人たちの生活が苦しくなった原因として最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号を書け。

- ア 冷害と浅間山の噴火が重なった天明のききんがおこったから。
- イ 御家人たちの領地は分割相続されたため、支配する領地がしだいに小さくなったから。
- ウ 定期市が開かれる日数が増え、取り引きに明銭が使用され、貨幣経済(商品経済)が浸透したから。
- エ 元寇に対する警備としての防人の負担が大きかったから。

(長野県)

【解答欄】

【解答】イ

【解説】

アの「天明のききん」は江戸時代の出来事である。ウの「明銭」が使用されたのは室町時代である(明の建国は1368年で日本は室町時代である)。エの「防人」は奈良～平安時代である。

[問題]

鎌倉時代、元寇が起こり、御家人の生活に影響を与えた。元寇後の御家人の生活について述べた説明文の A に適語を答えよ。また、B には幕府の対応の説明が入る。その説明として最も適当なものを、あとのア～エのうちから 1 つ選び、記号で答えよ。

(説明文)

元寇は防衛戦であったため、御家人は十分な恩賞をもらえないまま海岸警備の負担も続いた。さらに、武士の領地は(A)して相続されたため、御家人の中には生活が苦しくなる者が出たため、幕府は(B)。

(B の選択肢)

- ア 楽市令を出し、市場での税を免除したので商工業が活発になった。
- イ 徳政令を出して御家人を救おうとしたが、一時的な効果しかなかった。
- ウ 御成敗式目を制定し、武士の慣習をまとめ武家政治の基準とした。
- エ 御家人や豪商に朱印状を与えて収入の一部を幕府へ納めさせた。

(沖縄県)

[解答欄]

A	B
---	---

[解答]A 分割 B イ

[問題]

花子さんが鎌倉時代の御家人の生活について調べたところ、先生が資料 1, 2 を示してくれた。13 世紀は資料 1 のような領地の相続の方法が一般的であったが、14 世紀前半には資料 2 のような相続の方法が見られるようになった。なぜこのような変化が起きたのか、①変化の内容と、②その理由を書け。

(資料 1)

亡くなった夫から相続した土地を次のように相続させる。…豊後国(大分県)大野郡の荘園の志賀村の半分は、子ども A が相続し、残りの半分は、子ども B が相続する。豊後国大野郡の荘園の上村の半分は、子ども C が相続し、残りの半分は、子ども D が相続する。(1240 年)

(資料 2)

領地は、すべて跡取りの子に譲ることとする。…今後は、子孫の一人に相続させること。

(1330 年)

(福井県)

[解答欄]

①
②

[解答]① 領地の相続が分割相続から単独相続に変わった。

② 一人あたりの土地が小さくなり、御家人の生活が苦しくなったから。

[問題]

元寇での戦いなどでますます苦しくなっていった御家人の生活を救うために、幕府が出した法令として最も適当なものはどれか。

[大宝律令 御成敗式目 徳政令 外国船打払令]

(鹿児島県)

[解答欄]

[解答]徳政令

[問題]

鎌倉幕府は、生活が苦しくなった御家人を救うために徳政令を出した。このとき出された徳政令の内容を簡潔に書け。

(奈良県)

[解答欄]

[解答]御家人の借金を帳消しにする。

[問題]

鎌倉幕府が出した徳政令の目的を書け。

(熊本県)

[解答欄]

[解答]苦しくなった御家人を助けるため。

[問題]

元寇後の鎌倉時代の社会を述べたものはどれか。次のア～エから 1 つ選んで、その記号を書け。

ア 源義家が、東北地方の大きな戦乱をしずめ、東国に勢力をのぼした。

イ 都市では、米の買いしめをした商人に対する打ちこわしがおこった。

ウ 幕府は永仁の徳政令を出すなど、生活に苦しむ御家人を救おうとした。

エ 全国の土地が、石高という統一的な基準であらわされるようになった。

(香川県)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

アは平安時代，イは江戸時代，エは桃山時代

[問題]

次のア～エのできごとを，年代の古いものから順に並べ，その符号を書け。

- ア 鎌倉幕府が永仁の徳政令を出した。
- イ 鎌倉幕府が博多湾岸に石の壁(防塁)を築いた。
- ウ 弘安の役が起こった。
- エ 文永の役が起こった。

(石川県)

[解答欄]

[解答]エ→イ→ウ→ア

[解説]

エ(1274年文永の役)→イ(防塁を築いて元の再度の襲来に備える)→ウ(1281年弘安の役)
→ア(1297年永仁の徳政令)

[問題]

鎌倉幕府が行った次のア～エのことがらを，年代の古い順に左から並べて書け。

- ア 朝廷の監視などを強めるために京都に六波羅探題を置いた。
- イ 生活が苦しくなった御家人を救うために徳政令を出した。
- ウ 二度目のモンゴル軍の来襲にそなえ博多湾沿岸に石の防壁を築いた。
- エ 裁判の基準を御家人に示すために御成敗式目をつくった。

(福島県)

[解答欄]

[解答]ア→エ→ウ→イ

[解説]

ア(承久の乱 1221年→六波羅探題)→エ(御成敗式目 1232年)→ウ(元寇 1274～1281年)
→イ(永仁の徳政令 1297年)

[鎌倉幕府の滅亡]

[問題]

鎌倉幕府への反感が強まる中、政治の実権を朝廷に取りもどすために兵を挙げ、鎌倉幕府をほろぼした天皇は誰か。

(補充問題)

[解答欄]

[解答]後醍醐天皇

[解説]

1333年に鎌倉幕府は滅亡した。滅亡の原因の第一は、御家人の窮乏と不満である。領地の分割相続によって御家人は次第に窮乏していった。また、元寇のとき恩賞がほとんどもらえなかったことで幕府への不満が広がった。幕府は徳政令を出したが、その効果はうすく、かえって不満と不信をまねく結果に終わった。

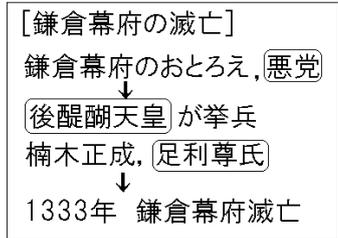
このような動揺をおさえるため北条氏は専制政治を強化したが、それはますます御家人の不満をつのらせる結果になった。

滅亡の原因の第二は、鎌倉中期以降の経済発展によって社会が大きく変動し、それにともなって、新しい武士階層が出てきたことである。農村経済の発達とそれにともなう商業の発達によって経済力をたくわえた御家人ではないあらたな武士が成長していった。彼らの中には、荘園の年貢を奪うなど、幕府の秩序を乱す者もおり、悪党とよばれた。悪党はやがて各地に広がっていき、百姓の抵抗運動とともに、荘園領主や幕府を悩ますようになっていった。

幕府のおとろえをみた後醍醐天皇は、幕府をたおして天皇中心の政治を取りもどそうと考え、楠木正成など、悪党とよばれた武士たちによびかけて兵をあげた。

これに対して幕府は、大軍を京都にのぼらせた。しかし、有力な御家人の足利尊氏は、幕府にそむいて、1333年、京都の六波羅探題を攻め落とし、新田義貞も鎌倉に攻め込んで、鎌倉幕府をほろぼした。(一味さんざん(1333)鎌倉滅ぶ)

※入試出題頻度：「後醍醐天皇○」「足利尊氏○」「悪党○」



[問題]

次の文中の①、②の()内より適語を選べ。

御家人たちの生活は苦しくなり、領地を手放す者も多くなった。幕府は①(分国法／徳政令)を出して御家人を救おうとしたが、失敗に終わった。また、武士の中には、荘園におし入ったり、年貢をうばったりする②(倭寇／悪党)とよばれる集団があらわれたが、幕府はその集団の取りしまりを十分に行うことができず、しだいに幕府の力はおとろえていった。

(新潟県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 徳政令 ② 悪党

[問題]

次の各問いに答えよ。

- (1) 近畿地方中心に鎌倉幕府に従わない武士が成長し、年貢をうばう武士も出てきた。このような武士は何と呼ばれていたか。
- (2) (1)を代表する武士で、鎌倉幕府を倒すのに功績のあった人物を1人あげよ。
- (3) 幕府にそむいて、京都の六波羅探題を攻めた有力な御家人は誰か。
- (4) (2)や(3)などを味方につけて、1333年に鎌倉幕府を倒した天皇は誰か。

(補充問題)

[解答欄]

(1)	(2)	(3)	(4)
-----	-----	-----	-----

[解答](1) 悪党 (2) 楠木正成 (3) 足利尊氏 (4) 後醍醐天皇